

今 回は田村市が生んだ有名な和算家佐久間庸軒のお話です。

その前に和算とはどのようなものであるかお分かりでしょうか。現在私たちが学んでいる数学は西洋から伝わったものですが、和算は中国の伝統数学の影響を多少受けてはいるもののそれが伝来する以前の縄文時代から円や円周率の概念が存在し、それらから竪穴式住居や環状列石などが作られています。そして日本では奇数が縁起が良いものとされ、七五三やしめ縄づくりになどに用いられてきました。和算はそこから発展した独自の数学で、江戸時代前期に関孝和の出現でより高度に発展した学問ですが、明治に入り西洋数学が主流となって和算が使用されなくなりました。佐久間庸軒は1819（文政2）年に船引町石森で生まれ、本名は佐久間續、庸軒の名は今でいうペンネームで

す。幼い頃から父の影響を受け算学を勉強するため、二本松市の和算家渡辺一に師事し、石森から二本松市まで毎日歩いて通ったという逸話が残っています。

庸軒の会得した和算は最上流といい、開祖は山形県最上地方出身の会田安明です。

17歳の時に「当用算法」という本を書くなどとても優秀で、1860（万延元）年に三春藩士となり藩校明德堂の教授を務めます。明治時代に入ると県の職員となり、測量を行っていましたが、自分だけが国のために働くより多くの人が国のためになるよう算学を教えるため、故郷の石森に戻り、塾を開きます。現在石森に残っている建物は、「庸軒書齋」として田村市指定文化財となっており、これは庸軒の父質が和算の稽古所として建て、和算研究の場となったものです。多くの農民や商人などに算学を教えて

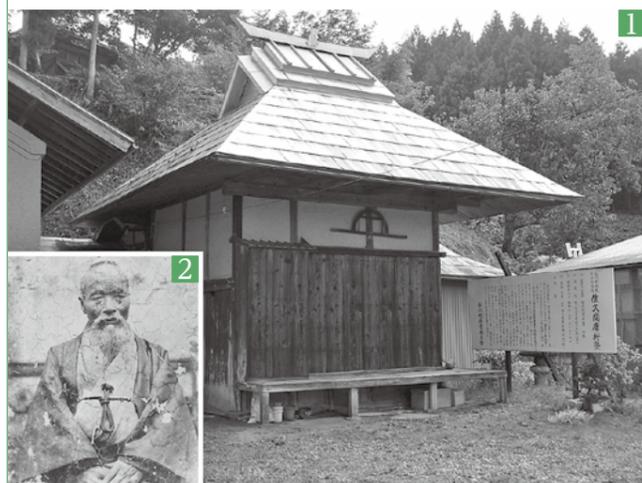
いた頃にはこの書齋の前に寄宿所があり、全国各地から庸軒を慕って弟子たちが集まっていたとされています。

そして、ここで算学を極めたのち、新たに弟子を取る人もいて、庸軒の門下生は県内外に及びその数は2千人を超えていたと言われています。

また、庸軒は和算を極めるために伊勢や熊野、四国、九州天草など全国各地を巡っているほか、測量学や西洋数学、絵や俳句なども学び、1896（明治29）年に77歳で亡くなりました。

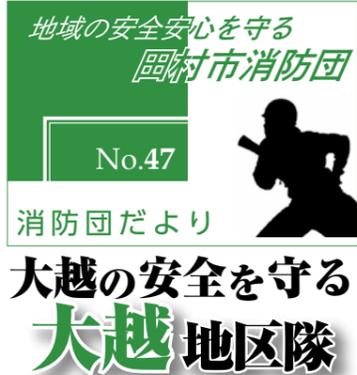
さて、1882（明治15）年に完成した日本三大疏水の一つである郡山市の安積疏水は、オランダ人技師ファン・ドールンの功績が大きいとされていますが、実際にドールンが現地に行ったのはわずか2日で、疏水工事の測量に従事したのは、庸軒の門下生たちを中心となっていました。庸軒書齋には、自身が書いた

た書物や当時の測量に使われた道具などが多く残されており、文化財として県指定60点、市指定57点が登録されています。



1_ 佐久間庸軒書齋 2_ 晩年の佐久間庸軒

今回は、引き続き「和算に関する算額」を紹介する予定です。田村市の文化財一覧はこちら▶▶▶



●大越地区隊の編成
大越地区隊では、4年度から地区隊専任の訓練部創設の準備を進めています。3年度までは訓練部員を各分団の部長が兼任していましたが、専任にすることで、地区隊員の中でもいち早く消防知識と技術を習得し、地域防災に役立てていきます。

●新入団員訓練

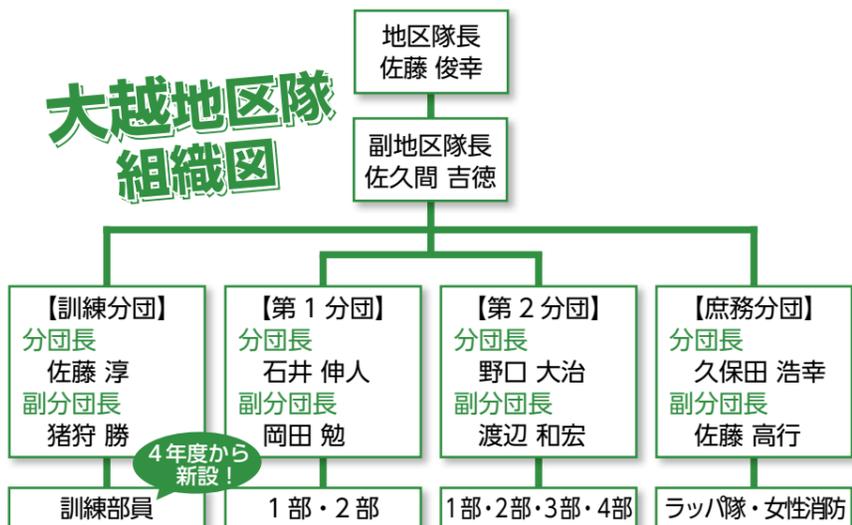
昨年11月14日、部長・新入団員訓練を感染予防対策に配慮しながら実施しました。新入団員16人を対象とした号令訓練では、団員たちへ有事に備えるために規律を意識させる指導を行いました。

●令和4年無火災祈願

1月9日、田村市消防団出初式後に見渡神社通拝殿（下大越）で無火災祈願を行いました。例年、無火災祈願のほかは大越地区独自の出初式を行っていましたが、今年度は感染症予防の観点から開催を中止しました。



▲新入団員訓練の様子



郡山消防本部からのお知らせ

～田村消防署管内の安全と安心を守るために～
常葉分署を閉署し、田村消防署へ集約します

田村消防署常葉分署を4年3月末で閉署し、その機能を4月から田村消防署へ集約することで、社会情勢の変化に対応し、将来にわたり安定した消防サービスの提供を行っていきます。

▶田村消防署拡充の概要



【拡充内容】

- ◆職員数の増員
- ◆運用部隊数の増隊
- ◆特別救助隊の発隊による救助隊の充実強化

拡充内容	拡充前	拡充後
配置職員数	35人	49人
部隊運用数	3隊	4隊
救助隊区分	救助隊	特別救助隊

今後も皆さんの安全と安心を守り、各種災害の被害軽減に努めていきますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

岡郡山地方広域消防組合消防本部 総務課
☎024-923-1734

【消防隊・救急隊の出場イメージ】

